意見聴取会にあたり障害者関係団体から

事前に寄せられたご意見等

《ひまわり会（宇部ダウン症児親の会）》

・　中学生の障害児の学童保育があるとよい。施設で放課後預かってもらっても、時間が短く、（人数が）いっぱいで利用しにくい。

・　障害児が学校から帰宅した後行く場所がない。他の児童はおけいこ事などをしているが、障害児もそのような活動をしたい。福祉会館などで、習字やダンス、音楽など曜日ごとにいろいろな教室があると、子どもたちも楽しめると思う。

《NPO 法人　おひさま生活塾》

・　誰でも利用できるショートステイを増やしてほしい（夜間も看護師が常駐している）。

・　医療行為が必要な人がショートステイを利用するときには、（ショートステイの）施設に看護師を派遣してほしい。

・　福祉手当と障害者手当を統一し、障害者手当の受給資格を緩和してほしい。ＩＱの違いは日常生活を送る上での困難には関係がなく、障害者には常に介護が必要である。

《宇部市障害者ケア協議会》

１．　市営バス優待助成事業・・・廃止し、別のシステムを構築

１～３級の身体および知的、精神の手帳保有者は無料となる制度であるが、年間 36 百万円を超える財政支出となっている。障害者といえども、ある程度の負担をするのがノーマライゼーションの実現に近づく道筋であり、障害者＝無料という構図は改めてゆくべきである。ただし、「払いたいが払えない現実」という個別案件については、個々の問題解決を図る必要はある。

一つの案として、下記システムが考えられる。

【システム案】

・1 日に複数乗車する場合： 100 円で一日乗車券発行
・1 日に１回だけの利用： 50 円で乗車
・23 年度の優待券実績： 3,954 枚
・活用率 30%と仮置き
100 円 × 365× 0.3 × 3954 ≒ 43 百万円

これは、23 年度支出＋ 7 百万円である。また、市営バスが積極的なサービス提供を行うことで更なる収入増も可能であろう。

２． 福祉タクシー助成事業・・・要件見直しが必要
全体 2106 冊の内、透析通院者用は約 20%程度。（実人数では、約 6%）
支給対象は、身体１～３級、知的 A のみで、精神や難病等は対象外。バスの助成もあるので、本当にタクシー利用が必要な障害者に対して支給できるように、要件の見直しが必要。
一つの案として；タクシー利用が不可欠の重度障害者は、そのほとんどが福祉タクシーを必要とするのではないか？そうであれば、宇部市に登録した福祉タクシーについてのみ、利用が可能という運用に変更すれば、ちょい乗り利用は抑制できると考える。
透析患者等、日頃から一般タクシーを利用する重度障害者については、特別タクシー券を発行し、支給の際にその必要性を申告・判断すればよい。

３． 緊急通報装置設置事業・・・継続
危機管理の観点から有効な事業であり、存続すべきものである。
４． 配食サービス事業・・・継続可
特段の意見無し
５． 心身障害者福祉手当・・・廃止
福祉の充実は図られてきている現在では、既に役目を終えた事業で有ろう。また、対象者も偏りがある。（精神や発達、難病等が対象外）
毎月 2000 円（児童 2600 円）の受給が本当に必要な当事者は、果たしてどの位いるのだろうか？児童に関しても、所得がある一定額以下の場合は「障害者福祉手当月 14,280 円」を受給可能で、受給すれば当該手当の対象外。つまり、一定水準以上の世帯が主な対象となるものであり、毎月 2,600 円がどれだけの意味を持つのだろうか？
従って、この制度は廃止した上で、本当に困窮となる個別事案に対しては、別途対策するという考え方が妥当と思われる。
【予算の活用について】

上記により、約 65 百万円の原資が創出できる。この予算を、より有効な障害福祉の分野に投入し、更なる安心感のある地域社会形成に活用すべきである。

現在、懸案事項として意識していることは；

① 地域生活拠点の整備に対する助成

グループホームやケアホーム、並びに日中活動の場等の更なる整備（待機者が発生せず、安心・安全に暮らせるように）

② 最重度の身体障害者（児）の日中活動の場の整備（医療的ケアが必要）

③ 親亡き後の安心のために、成年後見制度のシステム構築への助成

慢性的な財政難の折、限られた予算を選択と集中により、有効活用すべきである。

【その他の意見】

１． 重度心身障害者医療費助成

現在、自己負担分を全額補助（結果として無料）となっているが、見直すべき。一つの案として、障害ゆえに必要な医療ケアに対してのみ助成し、一般的な病気については一定額の負担を課すことが公平性の観点からあるべき姿だと思う。

２． 災害時避難システムの具体化

昨年の検討会の色々な議論がなされ、提言も出されているが、未だに具体化ができていない。一方で、南海トラフの巨大地震による地震と津波の想定値が提示され、全国的に備えが急がれている。宇部市でも、震度 5 強、最大津波 TP+4m の想定値があり、緊急な避難具体化が急がれる。津波に対しては、到達予想時間が 2.5 時間となっており、具体的で安心感のある避難システムがあれば、安全に退避できるはずである。早急なる避難システムの具体化を願っています。